

家老屋敷 江戸時代末期、柳生1万石の家老であった小山田主幹の旧邸。現在は資料館として公開中。邸内は鴨居、屏風、間どりなど武家屋敷の様式をそのまま伝え、柳生藩士の生活やテレビ「春の坂道」のロケ風景などを紹介。

柳生の里花しょうぶ園 1万㎡の扇形の斜面は紫・白・黄など、色や紋様とどりの花しょうぶで埋まる。開園＝6月上旬～下旬。
開花お問合せ ☎(0742)94-0858・0002

柳生陣屋跡 柳生新陰流を生み出した石舟斎の子、宗矩が築き、明治の廃藩で消失。一帯は桜を中心とした花の公園となり、絶好の休憩地。

芳徳寺 柳生家の菩提寺。境内からは柳生の里一望。本堂には宗矩、沢庵・列堂和尚の木像が祀られ、隣接の史料室では柳生藩の資料を展示。寺の裏には石舟斎以下柳生一族が眠る墓地も。正木坂道場も剣の里らしいたたずまい。

- バス近鉄奈良駅から柳生まで約50分
※ゆき、かえり共本数が少ないため要確認
- バス時刻のお問合せ
奈良交通テレホンセンター ☎(0742)20-3100
- 地図内の数字は、出発地点からの実測距離(メートル)を現わしています。

天乃石立神社 星をお暗い谷に埋まるきんちゃく岩など4つの謎の巨岩がご神体。天の岩戸から飛んできたという伝説もうなずける迫力。石舟斎が天狗と思て切ったという一刀石も大自然の不思議をまざまざと見る思い。

ほうそう地蔵 ほうそうよけに作られたという高さ3mの石仏。元応元年(1319)の銘が認められ、借金棒引きをうった徳政一揆の銘文も興味深い。

南明寺 なぜか気の安らぐような簡素な美しさをもつお堂。鎌倉時代に建てられた寄棟造の古刹。本堂内には薬師・釈迦・阿弥陀の3如来を安置。

夜支布山口神社 こもりした森の中にたたずむ延喜式内社。8月17日の大柳生太鼓踊りは、ここのお祭り。境内では春日造りの立磐神社本殿が美しい。

- なんば駅から近鉄奈良駅まで約35分
- 京都駅から近鉄奈良駅まで特急約35分
- 名古屋駅から近鉄奈良駅まで特急約2時間30分

柳生の「シロ」に「十兵衛」が植えたといわれるが、落雷で木が倒れ、いま二代目「十兵衛」。



見事な石組の白壁の塀。多分小山田主幹の旧邸で、武家屋敷の遺構が見られる。

花巻地蔵は鎌倉後期の名作。借金棒引きがうけい。

柳生の紋様が馬から渡り中のお膳と柳生問答の末、お膳が「お膳が」ロマンサ。

本堂は鎌倉中期(寛文)の五層三体式堂文で、境内の宝篋印塔や十三重石塔も見事なもので、

コースは東海自然歩道まどる。道標はいちおう完備されている。

コースのあらまし 剣豪の里・柳生は盆地にひっそりとたたずみ、まるで小さな独立国。4月は桜、6月は花しょうぶが見ごと。家老屋敷・柳生藩陣屋跡・芳徳寺など柳生家ゆかりの史跡を訪ねた後、東海自然歩道に入る。坂原峠(かえりばさ峠)までは石仏の名作が並ぶゆるやかな上り、峠を越して箱庭のような風景を眺めながら阪原へ下る。南明寺で一息ついたあとちよっとした峠を越すと大柳生の集落。大和棟の家々を後に最後の山道を上ると忍辱山に着く。のどかさ満喫のハイキングコース。



ハイキングのエチケット

- ゴミはまとめて持ち帰りましょう。
- 山火事防止のためタバコに注意しましょう。
- 大切な自然です。植物の採集はつしみましょう。

柳生街道(剣豪の里)コース

●約9キロ[柳生バス停～家老屋敷～芳徳寺～南明寺～忍辱山バス停]

きれいな思い出 きれいな自然
ゴミや空き缶は、持ち帰りましょう

夜支布山口神社 境内の立磐神社のうしろの岩がご神体。



円隆寺 バスの時間が遅く止ば「100メートルお寺」の距離。楼門や本堂多宝塔は小仏の閑静なたたずまいを見せる。



せせらぎの川音が終着点に知らせる。



忍辱山 近鉄奈良駅から